神宮寺小学校
理科室通信

第57号

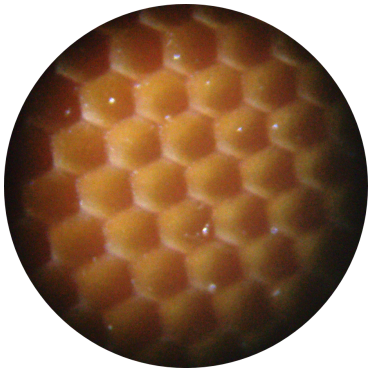
理科室からこんにちは

～　親子で理科を楽しもう　～

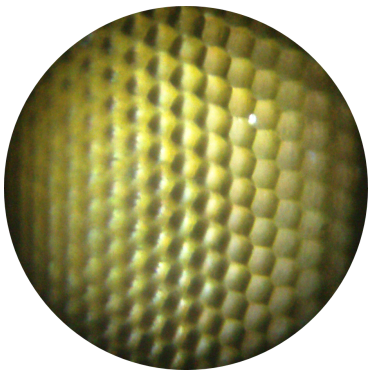
平成21年11月4日

～　トンボの目のはなし２　～

「続いたね。」
「うん，つづいちゃった。」
「ちゃった？　ま，いいけど。じゃあさっそく，この二色の複眼をよーく見て見ようか。」
「虫めがねで見てみようっと。うーん，つぶつぶが見えるけど，よく分からないよ。」
「じゃーん。そんなときにはこれを使うのだ。『顕微鏡（けんびきょう）』だよ。虫めがねよりも，ずーっとずーっと大きく見えるんだ。ではトンボ君の目を見てみよう。」
「うわあ，すごーい。えんぴつみたいだよ。」
「いいたとえだね。鉛筆をこんなふうに並べてみたことはあるかな。」
「うん，あるよ。すきまがなくぴっちりならぶよ。まるいとすきまができるけど。あっ，そうか。すきまなくならべるときは，このかたちがいいんだ。はちのすもそうだよね。」
「そう。この形を六角形というんだよ。」
「なるほど。かどが六つでろっかくけいか。」



茶色の部分の複眼



緑色の部分の複眼

「これは150倍の大きさで見ているんだよ。」
「ちゃいろいほうがやっぱり大きいね。」
「そうだね。どうしてだと思う。」
「大きいほうがいっぱい見えるのかなあ。うーん。」
「一個一個が光を感じるレンズだと考えると，分かってくるかもしれないよ。」
「レンズ？　……あっ！ぼうえんきょうはレンズが大きいほうがとおくが見えるよね。だからちゃいろでふくがんが大きいほうは，とおくをみるためだよ，きっと。でもって，みどりの小さいほうはちかくのこまかいものをみるためじゃない。きっとそうだよ。」
「なるほど，そうかもしれないね。トンボ君，そうですか。」
トンボ君は何も答えず，はやく放せとあばれるばかり……。